

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の 目標値	R元年度の 実績値〔見込値〕
国際会議の開催件数と 成約件数 ※ < > は成約件数	件	60 <55>	57 <55>

未達成の要因と分析	<p>令和元年度は国際会議61件の開催を見込んでいたが、新型コロナウイルスの影響によるキャンセルが発生（2月：3件中1件、3月：3件中3件）した結果、最終的な開催件数は57件となり、目標を下回った。</p> <p>また、国際会議の成約についても、一度は61件まで到達したものの、新型コロナウイルスの影響によって令和2年3月末時点で既に6件のキャンセルが発生しており、当該年度に得られた成約件数は最終的に55件となった。</p>
------------------	---

今後の改善方策	<p>今年度は新型コロナウイルスの影響があるものと想定されるが、以下の①～⑦に引き続き取り組むとともに、キャンセルとなったものについて再度誘致を行う。</p> <p>①特性に応じた戦略的誘致推進 ②データに基づくマーケティング戦略の推進 ③地域一体での国際会議誘致推進 ④支援制度の拡充 ⑤キーパーソン等との新たなネットワーク形成 ⑥「オール大阪」による誘致推進 ⑦誘致のための人材育成</p>
----------------	---

〔2〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の 目標値	R元年度の 実績値〔見込値〕
主要3施設の稼働率の向上	%	86.2	76.2

未達成の要因と分析	<p>令和元年度は大型催事の件数が前年に比べ減少（1千万円以上の催事 H30-37件、R1-28件）し、全体として小型案件が多く、（これは、主要都市を持ち回りで開催する大型の医学系学術会議によるところが大きく、大型会議が集中した年のあと2～3年は全体として小ぶりの会議となる傾向がみられる。）稼働率が伸びなかった。（コロナの影響がなかったとしても、目標に届かなかった公算大）</p> <p>また、2月、3月に新型コロナウイルスによるキャンセルが件数ベースで2月で△20%、3月で△70%となったため、稼働率が大きく落ち込んだ。</p> <p>※第3四半期末（令和元年12月末）時点では85.3%であった。</p>
------------------	--

今後の改善方策	<p>今年度は新型コロナウイルスの影響があるものと想定されるが、次の取組を実施する。</p> <p>◀高稼働率に向けた取組み▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型催事の誘致（株主総会、卒業式・入学式、周年行事、展示会、キックオフ、表彰式等） ・閑散期（月曜、7月～8月、1月）誘致営業 ・施設を稼働させながら設備等のメンテナンス実施を行うための詳細な調整、工夫
----------------	--

法人名

株式会社大阪国際会議場

■ 目標値未達成の要因について

〔3〕

R1年度の 成果測定指標	単位	R1年度の 目標値	R1年度の 実績値〔見込値〕
財務基盤の確保	百万円	1,977	1,856

未達成の要因と分析

未達成の主な要因は下記のとおりである。

・平成30年度は1件1,000万円を超える大型催事が37件開催されたのに対し、令和元年度は28件にとどまっており、全体として小型案件が多く、会場費にあたる施設利用料及び附帯設備料等が伸びなかったこと。

（これは、主要都市を持ち回りで開催する大型の医学系学会によるところが大きく、大型会議が集中した年のあと2～3年は全体として小ぶりの会議となる傾向がみられる。）

・サービス事業の柱と想定していた弁当事業が業者との調整等に時間を要し、事業開始が遅れたこと。

また、新型コロナの影響については、施設利用料はキャンセルがあった場合でもキャンセル料として売上計上するが、附帯設備料、催事関連収入等のサービス事業は売上計上できないため、売上が大きく落ち込んだ。

今後の改善方策

前項目〔2〕の取組に加え

・サービス事業収入に繋がる営業活動（備品利用、弁当・ドリンク・ケータリングの受注等）を展開する。